

＜団体紹介＞

学習院大学文学部日本語日本文学科（日本語教育系）及び人文科学研究科日本語日本文学専攻（教育系）は、日本語教育に関する専門的な知識・能力を身に付けることを目指しています。しかし、各種の講義・演習を履修するだけでは、日本語教育における実践的な能力を向上させることは困難です。そこで、日本語教育の実践の場として、同時に、地域貢献の一助となるべく、1997年より豊島区との連携の下、学内に日本語教室を設けています。2013年からは、本学の国際化を担う国際研究教育機構の支援を受け、さらなる地域貢献を目指して、新たな教室の運営を始めました。

学習院大学日本語教室（火曜午後）

目標：地域在住・在勤・在学の外国人と同世代の日本人学生が交流し、共に考え、相互理解を深める
特徴：参加者の興味・関心に基づくテーマ設定、インターアクションを重視した授業設計
テーマ例（2015年度）：お風呂文化、観光地紹介、贈り物、自国料理、地震、お祭り、食事会企画
担当者：日本語教育系学部生、アドバイザー

わくわくとしま日本語教室（土曜午前）

目標：生活に必要な日本語と社会文化知識を身につけ、安全かつ快適な地域生活を送れるようになる
特徴：①「標準的なカリキュラム案」に基づくコース設計
②継続的・自律的に学ぶ力を養う、学習ポートフォリオの開発・活用
③日本語能力の伸長に関する客観的把握及びコース評価のための「日本語能力判定」の実施
④地域の各種機関・組織との連携授業の実施
テーマ例（2015年度）：<わくわくクラス> 電車に乗る、119番通報、薬を買う、チラシを読む、スポーツセンターへ行く
<ぐんぐんクラス> 通報・災害、イベント企画、情報発信、文化紹介
担当者：日本語日本文学専攻院生他、コーディネーター、アドバイザー
詳しくはこちら ⇒ <https://www.facebook.com/waku2.nihongo/>



☆教育の改善、専門性向上のために次のようなことを行っています☆

1. 定期的・日常的な会合（コース設計、指導案・教材検討、振り返り、等）
2. 指導案・教材・振り返り記録、等の蓄積・共有
3. 授業映像を用いた振り返り
4. 研修の実施（テーマ：授業設計の仕方、日本語能力判定の方法等）
5. 指導力評価チェックリストの活用

〔問い合わせ〕 学習院大学国際研究教育機構 georeoff[at]gakushuin.ac.jp
学習院大学日本語日本文学科 jpn-off[at]gakushuin.ac.jp



↑学習ポートフォリオ

事業実施概要

| | | | | | |
|-----------|--|--|-----|--|--|
| 事業名称 | 大学と地域の連携によるライフステージにあわせた日本語教育 —「多文化共生型地域社会の共創」をめざして— | | | | |
| 地域の課題 | 豊島区は在住外国人の数に比して、日本語教室数、参加者数が少ない地域である。しかし、実際に区内で接する外国人の多くは、日本社会で自立的に生活できる日本語力を持っているとは言い難い。彼らの学習ニーズや学習条件・学習環境、等に応え、動機を維持できる内容・方法を提供する日本語教室を展開する必要があると考える。 | | | | |
| 事業の目的 | 従来の、小学校から大学、社会人に至るまでの外国人のライフステージにあわせた日本語教育活動を継続しつつ、地域社会との連携をより強化したプログラムを実施する。消防署や清掃環境部、保育園・小学校や国際交流ボランティア団体などと連携し、知(地)の拠点としての大学を軸に、日本語教育を通じての「多文化共生型地域社会の共創」に向けて、より一層幅広い事業展開を行う。 | | | | |
| 事業内容 | 取組1 | | 取組2 | | |
| | 名称 | 生活に役立つ日本語教室 | 名称 | 社会に生きる日本語講座 | |
| | 目的 | 日本在住の青年外国人が同世代の日本人学生とともに考え、相互理解を深める。 | 目的 | 1.外国籍住民が日本語と社会文化知識を身に付ける。2.継続的・自律的な学びにつながる力を養う。3.協同で地域の日本語教育に取り組んでいくための体制づくりを行う。 | |
| | 内容 | 青年外国人に対するニーズ調査及び日本人学生の興味関心等をもとに、本学学生とのインターアクションを多く取り入れた日本語教室の開講。 | 内容 | 地域社会で生きていくために必要な日本語と社会文化知識を扱う日本語教室を企画・運営。学習ポートフォリオによる、自律的な学びへの支援。 | |
| | 対象 | 豊島区在住の青年外国人、本学学生 | 対象 | 日本語学習歴のない地域外国人住民 | |
| | 時間 | 1回 1時間×20回(全20時間) | 時間 | 1回 2.25時間×59回、3時間×3回(全141.75時間) | |
| | 人数 | 41人(うち日本語学習者数25人) | 人数 | 52人(うち日本語学習者数30人) | |
| | 取組3 | | | | |
| | 名称 | シンポジウム「外国人と共に生きる多文化共生型地域社会の共創—日本語教育を軸として」 | | | |
| | 目的 | 多文化共生型地域社会の実現に向けて、日本語教育体制を整備していくための基盤作り | | | |
| | 内容 | 豊島区内の各日本語教室の実施状況について情報共有を行うとともに、多文化共生型地域社会の共創につながる方法を議論し、教室間の連携・協力の可能性を検討した。 | | | |
| | 対象 | 本事業の関係者、日本語教室の学習者、地域日本語教室関係者、地域の住民など。 | | | |
| | 時間 | 1回 3時間×1回(全3時間) | | | |
| 人数 | 26人(うち日本語学習者数3人) | | | | |
| 連携体制 | 東京消防庁豊島消防署目白出張所、国際交流ボランティア Fam、学習院大学国劇部 | | | | |
| 成果と課題 | 成果：①日本語の伸長が確認できた ②自律的な学びへの支援方法が改善された 課題：①学習管理が苦手な学習者への対応 ②継続的に教室に参加する動機の確立 | | | | |
| 参加者の皆様へ一言 | 取組2について発表します。作成教材、学習ポートフォリオ、学習者による成果物などをご紹介します、みなさまと意見交換をしたいと思います。 | | | | |